

七条中学校だより9月18号

京都市立七条中学校

令和8年9月29日

発行:校長 林 秀雄

お気に入りの紹介

私には、毎回楽しみにしているテレビ番組があります。NHKの「魔改造の夜」です。この番組では、日本を代表する企業や大学のエンジニアたちが、おもちゃや家電製品を改造し、与えられた難しい課題に挑戦します。トースターで食パンを高く飛ばしたり、おもちゃを信じられないほど速く走せたりと、その内容は一見すると少し変わっています。しかし、この番組の本当の魅力は、完成した機械のすごさだけではありません。そこには、一流の技術者たちが頭を抱えながら悩み、仲間と議論し、時には意見をぶつけ合いながら、一つの目標に向かって知恵を出し合う姿があります。何度も失敗し、思うような結果が出ずに落ち込むこともあります。それでも諦めず、「もっと良くできないか」と試行錯誤を繰り返します。そして、その過程を通してチームが少しずつまとまり、大きな力を生み出していくのです。

私は、この姿こそが皆さんの学校生活にも通じるものだと思っています。総合的な学習の時間で取り組む探究活動。七中祭の合唱の部。体育の部の団体種目や応援合戦。そして生徒会活動や部活動。これらには、あらかじめ用意された「正解」がありません。どうすればクラスの合唱をより良くできるか。どうすれば仲間と力を合わせて勝利を目指せるか。どうすればみんなが納得できる学級や学校にできるか。その答えは教科書には書かれていません。だからこそ、一人ひとりが考え、仲間と話し合い、失敗と改善を繰り返しながら創り上げていくのです。大切なのは、最初からうまくできることではありません。失敗を恐れず挑戦することです。そして、うまくいかなかった時に「もうだめだ」と諦めるのではなく、「次はどうしたら良くなるだろう」と考え続けることです。

今、皆さんの目の前には、合唱練習や応援練習、生徒会選挙、部活動など、たくさんの課題があります。ぜひ困難に挑んだエンジニアたちのように、仲間と協力しながら、自分たちなりの答えを創り上げてください。結果ももちろん大切です。しかし、それ以上に価値があるのは、目標に向かって試行錯誤し、仲間と知恵を出し合い、一歩ずつ成長していくその過程です。七中生の皆さんにも、今だからこそ味わえる「挑戦の面白さ」を存分に経験してほしいと思います。きっとその経験が、皆さん自身を大きく成長させてくれるはずです。

<興味があれば>

もし、この話を読んで「そんな面白い番組なら見てみたい」と思った人は、ぜひ一度見てみてください。NHK総合テレビで不定期に放送されているほか、NHKプラスやNHKオンデマンドでも視聴できる場合があります。また、これまで放送された回が再放送されることもあります。インターネットで「魔改造の夜」と検索すると、番組の公式ページや予告動画なども見ることができます。

私がお勧めしたいのは、単に「勝ったチーム」を見ることではありません。ぜひ、●どんなアイデアを考えたのか●仲間とどんな話し合いをしていたのか●失敗した時にどう立て直したのか●最後まで諦めずに挑戦する姿勢に注目して見てほしいと思います。きっと皆さんは、「すごい技術だな」と感じるだけでなく、「自分たちの合唱練習や応援練習、体育の部、生徒会活動と同じだ」と気付くはずです。目標に向かって仲間と知恵を出し合うこと。失敗しても諦めずに改善を続けること。よりよいものをつくろうと挑戦すること。実は、その姿は一流のエンジニアも七条中学校の皆さんも変わりません。**挑戦する君たちの姿こそが、七条中学校の誇りです！**

<挑戦者たちの金言>

挑戦について…「できるかどうかではない、どうすればできるかを考える」「無理だと思ったところから、本当の挑戦が始まる」「成功の反対は失敗ではなく、挑戦しないことである」「挑戦する者だけが、感動を手にできる」

失敗について…「失敗は終わりではない、成功へのデータである」「失敗の数だけ、成功への道が見えてくる」「昨日の失敗を、今日の改善に変えろ」「失敗は恥ではない。挑戦した証拠である」

仲間について…「一人の力には限界がある、仲間の力には可能性がある」「アイデアは一人から生まれるが、成功はチームでつくる」「仲間を信じることも、一つの勇気である」「本気のチームには、本気のドラマが生まれる」

努力について…「才能よりも、あきらめない心が未来をつくる」「最後の1%へのこだわりが結果を変える」

「小さな改善の積み重ねが、大きな奇跡を生む」「あきらめる理由より、続ける理由を見つけよう」

成長について…「壁が高いほど、その先の景色は美しい」「困難は敵ではない、成長を促す先生である」「『なぜだろう』が未来を変える」「答えは最初から存在しない、自分たちでつくり出すものだ」

綱引きに勝つコツ、伝授します！

体育の部の3年生団体種目「学級対抗綱引き」。毎年、大きな声援に包まれ、体育の部の中でも特に盛り上がる競技の一つです。すでに体育の授業でも練習が始まっていますね。綱引きは、力自慢の人がたくさんいるクラスが勝つ競技だと思っていませんか。実は、それだけではありません。私も担任をしていた頃、クラスでさまざまな作戦を考え、綱引きに挑みました。その経験から、少しでも「勝つコツ」を伝授したいと思います。

コツ①「全員が同じタイミングで引く」

綱引きで最も大切なのは、実はチームワークです。一人ひとりがバラバラに力を入れても、大きな力にはなりません。「せーの！」や掛け声に合わせて全員が同時に力を入れることで、クラス全体の力が一本の綱に伝わります。まさに合唱と同じです。一人ひとりの力を合わせることで、大きな成果につながります。

コツ②「低い姿勢を保つ」

綱を引く時は、腰を落として重心を低くします。立ったまま後ろへ引こうとすると、足が滑ったり、後ろへ引っ張られたりしてしまいます。椅子に座るような姿勢で、しっかり地面を踏み（両足は肩幅から少し開き揃える）しめましょう。「低い姿勢（開始後、後ろに倒れこむようにして、顔は上を向く）を最後まで維持できるか」が勝負の分かれ目になることもあります。

コツ③「最初の数秒が勝負」

綱引きは長く続くように見えて、実は最初の数秒で流れが決まることがよくあります。スタートと同時に全員で一気に力を入れ、相手に「押されている」と感じさせることができれば、気持ちの面でも優位に立てます。スタートの集中力はとても大切です。

コツ④「最後まであきらめない」

綱が少し相手側へ動くと、「もう無理かな」と思うことがあります。しかし、綱引きはそこから逆転することも少なくありません。「まだ終わっていない！」「もう一回力を合わせよう！」そんな声が出るクラスは強いです。勝負が決まる最後の瞬間まで、一人ひとりが全力を出し切ることが大切です。

本当に大切なこと

ここまで勝つコツを書きましたが、実は一番大切なのは技術や作戦だけではありません。「クラスで勝ちたい」「みんなで力を合わせたい」「仲間を信じたい」そんな思いをもって練習し、本番を迎えることです。綱引きでは、クラスの団結力がそのまま結果に表れます。どのクラスも作戦を考え、声を掛け合い、仲間を信じて当日を迎えてください。体育の部当日、3年生らしい迫力ある熱戦を今から楽しみにしています。勝っても負けても、「クラスみんなでやり切った」と胸を張って言える綱引きにしてほしいと思います。頑張れ、3年生！

学習確認プログラムに向けて

10月8日（木）に学習確認プログラムを実施します。今回の学習確認プログラムは、これまでの授業で学んできた内容がどれだけ定着しているかを確かめるとともに、自分の得意なことや今後の課題を明らかにし、これからの学習に生かしていくことを目的としています。

予習シートはシルバーウィーク前に配布しています。計画的に取り組めば、無理なく学習を進められる内容となっていますが、しっかりと取り組むことができているでしょうか。学習確認プログラムは点数だけを競うものではありません。自分の学習状況を振り返り、次の成長につなげる大切な機会です。

特に1・2年生の予習シートの提出締切は10月2日（金）です。まだ取り組めていない部分がある人は、早めに計画を立てて学習を進めましょう。努力した分だけ必ず力になります。自分の可能性を広げる機会として、最後まで計画的に学習を進めてほしいと思います。